

平成3年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和3年5月27日(木)

4 調査の内容

教科に関する調査 (国語、数学)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【中学校 国語・数学 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、部活動の参加状況、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、ICT環境整備、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
【20分程度】		

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの

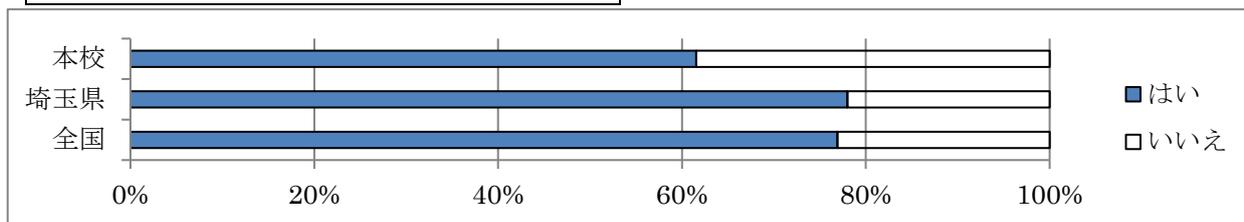
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	79.5	79.8	79.8
書くこと	2	54.1	56.7	57.1
読むこと	4	44.7	48.2	48.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	72.2	75.8	75.1

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	63.0	64.3	64.9
図形	4	47.2	52.0	51.4
関数	3	56.5	55.5	56.4
資料の活用	4	53.3	53.2	53.8

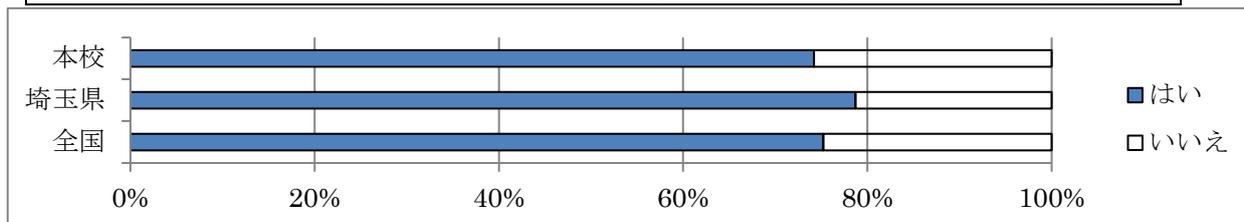
＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

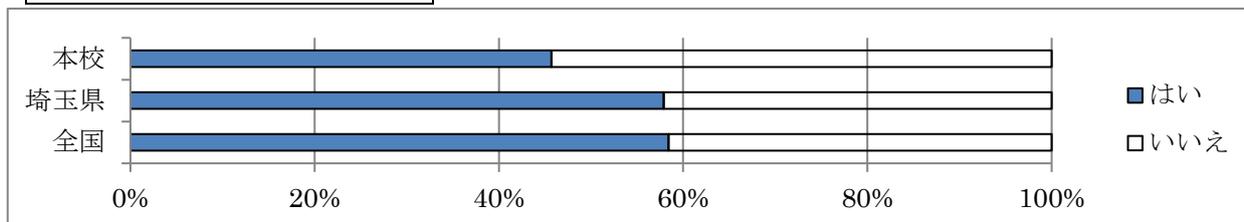
自分には良いところがあると思いますか。



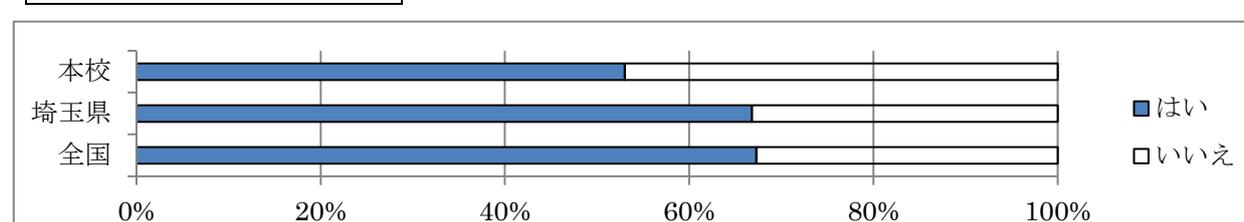
自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。



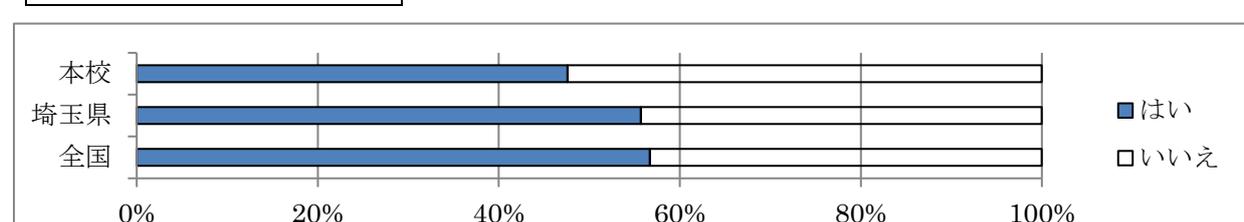
国語の勉強は好きですか。



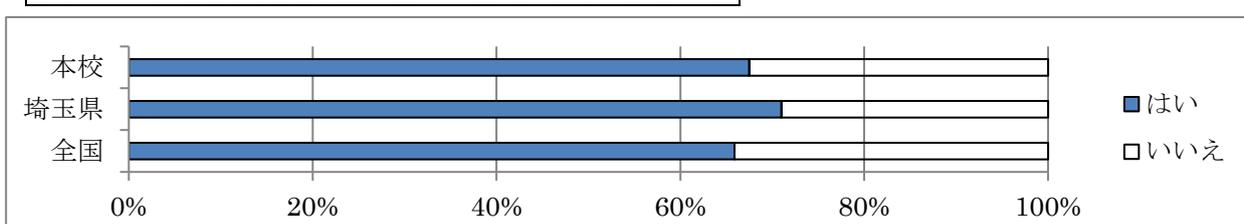
数学の勉強は好きですか。



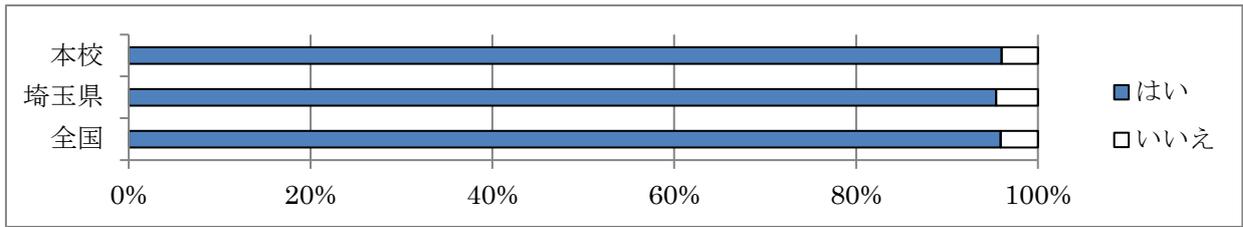
英語の勉強は好きですか。



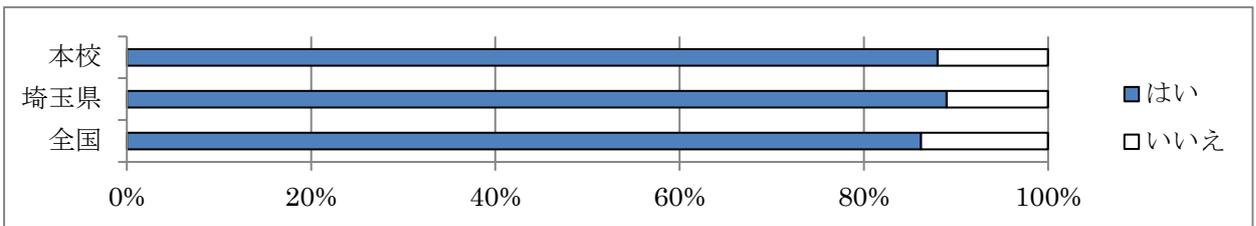
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。



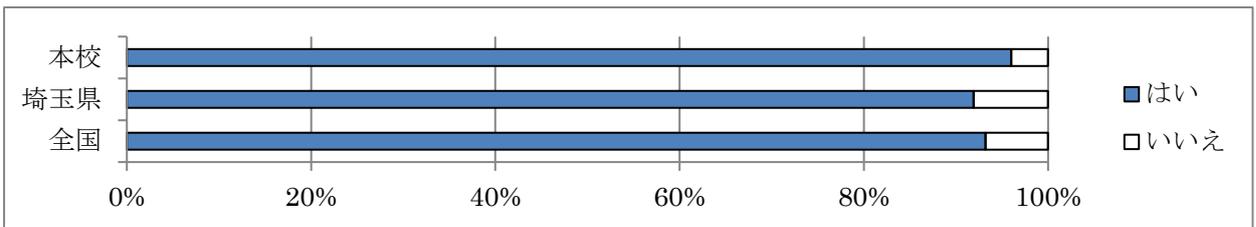
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別の分析】

結果からわかること

今年度、本校の全国学力・学習状況調査結果を見ると、正答率の4観点すべてにおいて、県、全国の平均を下回る結果となった。

分析

「話すこと・聞くこと」の分野では、全国平均が79.8%に対し、埼玉県も79.8%、そして本校は79.5%と、ほぼ同程度であった。この結果から、授業内における発表形式（問題解決型）の授業の増加、聞き取り問題の実施、音読活動の活発化などが影響していると考えられる。

「書くこと」の分野では、全国平均が57.1%、埼玉県が56.7%、に対し、本校は54.1%と、こちらではやや下回っている。授業の中で、単元の終了に合わせて課題作文を書かせてきたが、さらに今後も継続していくべきであると考えられる。

「読むこと」の分野に関しては、これまでの2つの観点と異なり、大きく下回っている。これには、本校における「定期テスト」でも同じような結果が得られ、埼玉県が行う「埼玉県学力学習状況調査」からも、この「読むこと」の力が伸ばしきれていなかった。したがって、今後の授業展開を「読むこと」の力を伸ばす授業を展開していきたい。

「言語文化」についても少々下回っているので、普段の授業の中でも「漢字」の指導から始まり、いろいろな言葉に触れられる機会を作っていく。

【問題①（例）】

問題例 1 三

大野さんの発言のあとで、参加者の一人が発言します。参加者の中から一人を選び「条件1」（どのようなことについて発言すればよいのか）と「条件2」（その理由を具体的に書く）にしたがって書きなさい。

正答例

石川さんは山下さんの質問にまだ答えていないので、石川さんが、その質問に対する答えとなる地域の方との清掃活動の手順について発言すればよい。

正答率 全国：57.1%
県：57.6%
本校：59.6%

<分析>

『話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える』ことができるかどうかを見る問題である。

本校では、国語の授業の中でも「わが家の料理の紹介」や「絵の鑑賞」、「新聞の投書に対する賛成・反対」など多くの『話合い活動』を行ってきた。発表するときの心がけ、聞く態度、話合い活動のルールとマナーについて身に付けてきている。これらの生徒たちの経験が、正答率が高い要因だと思われる。

【問題②（例）】

問題例 3 四

「出典」から、「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、また、そのような接し方をどう思うかを「条件1」（評価している表現を引用し、どのような接し方をしているかが分かること）と「条件2」（そのような接し方についての自分の考えを書く）にしたがって書きなさい。

正答の条件

- ① 「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。
- ② ①から、どのような接し方をしているかが分かるのかを書いている。
- ③ 自分の考えを具体的に書いている。
無回答率 全国：24.1%
県：24.3%
本校：17.2%

<分析>

『文章に表れているものの見方や考え方を捉え自分の考えをもつ』ことができるかどうかを見る問題である。本校で、すべての解答の中で最も無回答率が高かった問題であるが、全国・県と比較すると、正答率が高いほうである。「読むこと」と「書くこと」の指導が今後もさらに必要だと思われる。

<数 学>

【領域別の分析】

結果からわかること

領域別に見ると「関数」、「資料の活用」については県平均を上回っており、「関数」においては、全国平均も上回っている。

分析

観点別にみると、「数学的な技能」のみ上回っているが、「数と式」の正答率が県平均・全国平均を下回っていることから、「関数」や「資料の活用」の与えられたグラフや資料から必要な情報を読み取ることはできるが、基礎的な計算能力にはまだ課題が見られることがわかる。

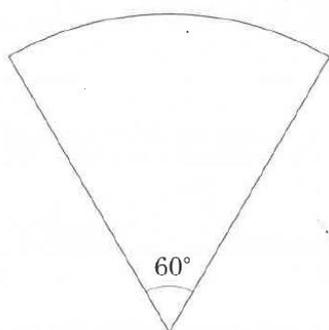
また、記述式の問題では、どの問題も県平均・全国平均を下回っているが、その差は大きくはなく、普段の授業で思考力や表現力を必要とする問題に取り組んだ結果であると思われる。しかし、「図形」の記述式の問題に関しては、平均を大きく下回っており、正答率の低さや無回答率の多さからも図形の基礎知識が身につけていないことが読み取れる。

【問題①】

問題 3

次の図のような、中心角 60° のおうぎ形があります。このおうぎ形の弧の長さは、同じ半径の円の円周の長さの何倍ですか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア $\frac{1}{2}$ 倍 イ $\frac{1}{3}$ 倍 ウ $\frac{1}{4}$ 倍 エ $\frac{1}{5}$ 倍 オ $\frac{1}{6}$ 倍



正答 (数量や図形などについての知識・理解)
オ 本校正答率 65.6%
(県) 68.3% (全国) 68.1%

<分析>

誤答例

イ 本校解答率 19.9%
(県) 17.7% (全国) 18.5%

本校正答率は、全国に比べて2.5ポイント下回っている。無解答率は0ポイントである。

解答が選択制であったため、無解答者はいなかったが、おうぎ形の弧の長さと中心角が比例の関係にあることを理解している生徒が少ないことが読み取れる。

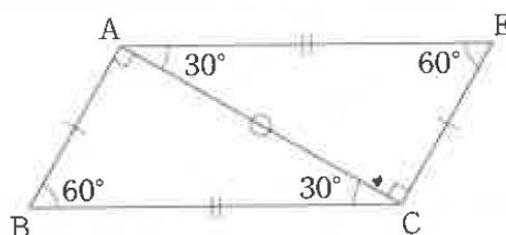
おうぎ形に限らず、円や多角形、空間図形など、様々な図形の特徴をおさえ、適応問題を繰り返し解く必要がある。

【問題②】

問題 9 (1)

図において、 $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことが分かります。

このことから、四角形 $ABCE$ 平行四辺形になることは、平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。



正答 (数学的な見方や考え方)

アの場合

$AB = CE \dots \textcircled{1}$
 $BC = EA \dots \textcircled{2}$

①②により、2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

イの場合

$\angle ABC = \angle CEA \dots \textcircled{1}$
 $\angle EAB = \angle BCE \dots \textcircled{2}$

①②により、2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

本校正答率 37.7%

(県) 47.1% (全国) 44.3%

<分析>

本校の正答率は、全国に比べて6.6ポイント下回っている。無解答率は2.0ポイントである。

平行四辺形になるための条件を理解している生徒が少なく、図形の基礎知識が身につけていないことが読み取れる。

筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を数学的に表現するために、既習内容を活かして、論理的に考察し、表現する学習を積み重ねることが必要である。

<質問紙調査から>

<p>【質問①】</p> <p>質問 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。</p> <p>回答結果 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校生徒の割合 96.0%</p>	<p>【質問②】</p> <p>質問 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。</p> <p>回答結果 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校生徒の割合 88.0%</p>
<p><分析></p> <p>○「役に立つ」と答えた生徒の割合は全国・県の平均を共に5ポイント以上上回った。</p> <p>◎今年度から1人1台端末環境が整備されたが生徒の感覚としても、これからの学習にICT機器が活用できると捉えているようである。調査当時(5月)はまだ使いはじめだったものの、この段階で生徒からこのような回答を得られたことで、授業等でさらに活用を促していくべきであると考えます。</p> <p>○本校では、ICT機器の積極的な活用を全校で取り組んでいる。「学校でICT機器を意見交換したり調べたりするのに、どの程度使用するか」の質問に「ほぼ毎日」が4.0%(全国平均は9.7%以下同様)「週1回以上」が29.8%(25.1%)「月1回以上」が35.1%(28.2%)であった。活用をはじめて1か月程度の段階でのこの割合が、来年度は大きく増加することが見込まれる。</p>	<p><分析></p> <p>○今回の質問に対して、88%の肯定的な回答は県の割合をわずかに下回ったものの、全国平均より1.8ポイント上回った。</p> <p>◎本校では平成30年度から教科化となった道徳の授業について、全校で研究に取り組んできた。道徳の授業において、考えたり議論する場面を通して道徳心や実践力を育むことを目的とした。その成果が表れているものと捉えている。</p> <p>○対象学年が1・2年次に受けた授業で「自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表したか」の質問に「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と肯定的に回答した生徒は67.5%と全国平均の62.0%を5ポイント以上上回っており、生徒は道徳の授業で実践してきた「考え、議論する」ことを、他の教科でも実践していることを示す結果となった。</p>

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）



1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](#)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和3年5月12日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	64.8	64.8	/	/	/	/	/	/
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	49.6	52.2	/	/	/	/	/	/
話すこと・聞くこと・書くこと	4	46.9	53.5	4	60.0	67.3	4	42.7	48.7
読むこと	8	64.1	65.3	9	54.9	58.3	9	78.5	81.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	/	/	/	17	62.2	64.7	17	59.8	65.4
※学力の伸びた生徒の割合	/	↑↑↑↑	↑↑↑	/	↑↑	↑↑	/	↑↑	↑↑↑

数学 (内容は算数)	第1学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	57.2	64.1
図形	8	52.3	55.2
変化と関係	6	48.6	53.3
データの活用	6	58.3	61.6
※学力の伸びた生徒の割合	/	↑↑↑↑	↑↑↑↑

数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	12	54.8	60.9	12	63.9	63.3
図形	6	45.6	54.8	7	64.2	63.8
関数	8	47.2	55.5	7	52.0	53.6
資料の活用	6	59.9	64.8	6	46.2	46.4
※学力の伸びた生徒の割合	/	↑↑↑↑	↑↑↑↑	/	↑↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	64.4	64.6	10	64.8	61.0
読むこと	18	63.3	65.2	18	61.3	60.2
書くこと	7	43.6	53.2	7	56.3	57.7
※学力の伸びた生徒の割合	/	/	/	/	↑↑↑↑	↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.2 97.9	98.2 96.7	98.7 96.7
	② 授業開始時刻	93.1 96.9	96.3 97.6	98.1 98.0
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	88.2 89.9	92.0 91.0	86.5 92.5
	④ 整理整頓	84.0 76.7	78.5 78.6	74.8 80.5
	○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする		
⑤ あいさつ		85.4 82.8	93.3 82.6	82.6 84.2
⑥ 返事		87.5 87.8	90.8 87.4	90.3 89.6
4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
⑦ ていねいな言葉づかい		86.8 90.4	93.9 91.2	94.8 93.7
⑧ やさしい言葉づかい		81.9 87.3	84.7 87.4	90.3 90.3
○約束やきまりを守ることができる		5 学習のきまりを守る		
	⑨ 学習準備	88.2 91.5	95.7 91.8	94.8 93.7
	⑩ 話を聞き発表する	63.2 76.1	73.0 73.8	74.2 76.7
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	86.8 92.1	96.3 93.2	96.8 95.5
	⑫ 掃除・美化活動	73.6 86.4	82.8 85.3	85.2 86.5

本校の学力向上の取組

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

授業における取組

☆1 個別指導の徹底

- (1) 個別指導の時間を確保し、チームティーチング等での指導。
- (2) 授業の約束や宿題をきちんとやる等、授業のルールを守る指導。
- (3) ICT機器を活用した個別最適化を目指した指導。

☆2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間を確保します。
- (2) ICT機器を活用し、生徒の思考を視覚化・集約し、言語活動を深化します。

☆3 学習に対する態度の育成

- (1) 日常生活や授業における適切な言葉遣いの指導
- (2) 教員による評価だけでなく、生徒自身による自己評価や、生徒同士による相互評価を日常化します。

授業以外の取組

■1 家庭学習の習慣化

- (1) 家庭学習の時間の確保を呼びかける。
- (2) 家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高めます。

☆2 生徒一人一人に合った学力向上に向けての取組

- (1) 定期テスト前の部活動停止期間中の放課後に、1～2日間の質問日を設定し、実施した。
- (2) 夏季休業中に3～5日間の補習授業を設定し、実施した。

本校の学力向上プラン

(1) 本校の学習指導目標

「学力」の3つの要素

- (1) 「基礎的・基本的な知識や技能」：基礎的・基本的な学習内容を生徒に確実に身に付けさせる。
- (2) 「思考力・判断力・表現力」：よく考え、豊かに表現できる力を育てる。
- (3) 「学習意欲」：学習規律の定着と徹底を図り、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。

「学力」の育成のため、(1)「何ができるようになるか」(2)「何を学ぶか」(3)「どのように学ぶか」という3つの視点を持ち、質の高い理解を図るために生徒の主体的な活動の充実を図る。

(2) 具体的な手立て

①「授業の約束(3つの行動)」

ア 生徒の思考・表現を可視化する言語活動を充実させた、意図的・計画的な学習を積み重ねることにより、思考力・判断力・表現力を育み、学力の向上を図る。

イ 「意見を聞いて比べ、深める」「自分の意見や考えを発表する」「協力して実習・実技や話し合いをする」などの活動を取り入れることで「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で授業改善を進める。

「思考力・判断力・表現力を伸ばそう！」



②「授業の約束（5つの心構え）」

- ア 「授業の約束」を守り、きちんとした態度で授業を受ける。
- イ 学習規律を定着させ、授業に向かう気持ちと姿勢を作る。
- ウ 1時間の授業を大切にし、意欲的に授業に取り組む姿勢を育てる。

授業の5つの心構え 進んで学び、自らを向上させよう

- 一、2分前着席をしよう
- 二、大きな声であいさつをしよう
- 三、意欲的に取り組もう
- 四、自分の考えを表現しよう
- 五、準備をしてから休み時間にしよう

③学習指導

- ア 互いに協力して学び合う学習集団を醸成する。
- イ 教科部会の定期的な開催を軸に、指導と評価の一体化を図り、常に授業改善に努め、わかる喜びを味わわせる指導法の工夫・改善を図る。
- ウ 定期テスト前の放課後や長期休業日を利用した補習授業を実施する。また、基礎・基本の確実な定着を図るため、長期休業後に確認テスト(国・数・理・社・英)を全学年ともに実施し、結果の活用を図る。
- エ 英語、数学でのTT指導による授業展開で、個に応じた指導の充実を図る。
- オ 家庭学習の習慣化を目指し、自主学習ノートを提出させ担任が指導・助言をする。
- カ 校内研修の充実を図り、学力調査結果の分析を通して、指導法と評価の工夫と改善を図る。

④新型コロナウイルス感染予防策について

- ア 感染予防の啓発のため、校内に感染防止を呼びかけるポスターを掲示する。部活動や委員会の活動にもつなげる。
- イ 手洗いの励行やマスクの着用を教師・生徒同士で呼びかける。
- ウ 体調管理表の記入と確認をする。
- エ 校内の消毒作業を実施(消毒チェック表の活用)する。

保護者・地域の皆様へ

本年度の埼玉県学力学習状況調査の質問紙調査において、本校の生徒はほとんどの項目で80%以上の達成率が示されています。傾向として、学年が上がるにつれその達成率が県の平均を上回るようになるなど、学校生活の中で規律ある態度を身につけながら成長している状況がうかがえます。

本校では、今年度まで「豊かな心を育む道德教育の充実」というテーマのもと「考え、議論する」道德の授業を実践してまいりました。道德における学びには、上記に関わるような、人との接し方、規律ある態度などの育成にも大きく関わるものであり、その成果が今年度の結果にも表れていると考えます。より健やかな生徒の成長を目指し、今後もこの取組は継続していきます。

また、今年度からは「主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実」をテーマとして、主にICT機器の活用を取り入れた授業を実践することで学習活動の充実を図っていくこととしております。学習面に関しても、生徒一人一人が向上心を持ち、意欲的に学べる体制を、家庭・地域と連携しながらつくり上げ、生徒のよりよい成長を促していきます。よろしくお願ひいたします。

